

(20070402)

## 博報堂 2007 年度入社式

博報堂は4月2日(月)午前10時、東京都港区芝浦の本社に新卒採用者93名を迎え、成田純治社長以下、役員および部門長が出席して、2007年度入社式を行いました。新入社員が一人一人紹介されたあと、成田社長が歓迎と激励の言葉を送り、式を終了いたしました。成田社長の挨拶の趣旨は以下の通りです。

本日、私達は93名の無限の可能性を持った皆さんを、新しい仲間として迎えることになりました。会社を代表して、心より歓迎致します。

アクティブでエネルギーに満ち溢れた若者が、この博報堂の仲間となることに対して強い期待を抱いております。嬉しいことに博報堂は採用人気企業ランキングでも高い位置にランキングされているようです。そんな中で、一万人近くの中から選ばれた皆さんには無限の可能性が詰まっていると確信しています。自信をもって、素直に真っ直ぐに成長して欲しいと思います。

さて、これから博報堂で仕事を始める皆さんに大切にしたいことがあります。それは、「感動する」ということです。私たちの仕事は、コミュニケーションを通じ生活者に夢や感動を与え、世の中を明るくすることです。一方で、皆さんの若さと創造力を存分に発揮していただき、熱い情熱を持って、自らの手がける仕事にも感動してもらいたいと思います。

さて広告ビジネスに目を向けると、i-メディア領域の急速な進化に代表されるように、メディア環境は大きな転換期を迎えており、それに伴い、広告ビジネスの領域も急激に変化してきています。しかしながら、その変化を当然のこととして、新しいビジネスを生み出すチャンスと捉えてほしいと思います。既存のマスメディアだけではなく、生活者と情報のタッチポイントは多様化し、変化を続けています。こうした時代の変化は、お得意先である企業や、さらには社会全体を活性化させるという広告会社の役割を大きく広げるチャンスに他なりません。やりたい仕事に出会うのを待つのではなく、自らの手でやりたい仕事を創り出すことによって、感動を呼び起こして欲しいと思います。

加えて、感動を創り出す上で大切にしたいのは「アナログ」なコミュニケーション

です。仕事の領域はどんどん「デジタル」化が進む一方ですが、仕事の進め方において「アナログ」なコミュニケーションの重要性はいつまでも変わることのないところだと思います。皆さんの世代ですと、若いころからネットやメールに慣れ親しんでいるのではないかと思います。やはり最後は人と人との「アナログ」なコミュニケーションによって生まれる「信用」「信頼」「誠意」がビジネスにおいては極めて重要になってきます。そしてそれはお得意先様に対してだけ言えることではなく、一緒に仕事をする仲間にも言えることです。入社前の研修でも実感したことかと思いますが、博報堂の伝統的な強みであるチームワーク力は、そうしたアナログのコミュニケーションを積み重ねることで醸成されていくものだと思います。

博報堂DYグループは昨年、新たなコミュニケーションの「場」を作るために赤坂へのオフィス移転を決定し、その準備もいよいよ本格化してまいります。皆さんには1日も早く会社に慣れていただき、ぜひ若い才能・体力・実行力を活かして、たくさんの人や仕事に出会い、感動してもらいたいと思います。

博報堂は、人が資産の会社です。1人1人の社員が生み出す価値が、博報堂の価値となります。

私は社長に就任して以来、「クリエイティブな博報堂を目指す」と申しあげて参りました。そのための施策として「博報堂大学」をスタートさせ、社員の人材育成に力を注いでいます。人が資産という以上は、皆さんが自らクリエイティブな人材になる為に、会社は助力を惜しみません。今日からしばらく研修が続きますが、先輩からスキルやノウハウを積極的に吸収し、自分自身にさらに磨きをかけて、一日も早くクリエイティブな人材に育って頂きたいと思います。

激動の広告業界の中で新たなステージを迎える博報堂は、そのブランドを預けるに値する人材として、皆さんを選びました。そして皆さんも自分の人生を賭けるに値する場として、博報堂を選んだことと思います。たとえ失敗したとしても、チャレンジをする人には寛容な会社です。失敗を恐れずに新しい仕事、難しい仕事、そして大きな仕事に挑戦されることを、心より期待しています。頑張ってください。

以上

2007年4月2日 株式会社博報堂 広報室
-----------------------------